

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	講師	氏名	高橋 千晶
学歴	平成 8年 3月 立命館大学文学部哲学科 卒業 平成10年 3月 同志社大学大学院文学研究科美学および芸術学博士課程 (前期) 修了 平成16年 3月 同志社大学大学院文学研究科美学および芸術学博士課程 (後期) 単位取得満期退学				
学位	平成10年 3月 美学修士 (同志社大学)				
専門分野	芸術学、視覚文化研究、写真史・写真論				
専門資格	平成 8年 3月 博物館学芸員資格取得				
所属学会	平成9年 4月 美学芸術学会 平成13年 4月 美学会 平成14年10月 日本映像学会 平成16年4月 大正イマジユリィ学会				
受賞					
担当授業科目	学 部 アートと社会、アートマネジメント論、初年次演習、総合社会学基礎演習、総合社会学演習、現代社会研究演習、現代社会研究演習、表現・発信系演習5				
論文指導	該当なし				
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名		科目カテゴリー	実施学期	履修者数
	アートと社会		講義・演習・実習・実験	春・秋	約120名
	授業の概要：近現代社会におけるアートの変容とその広がりについて、(1)近代社会の成立とアートの変容、(2)ポップ・アートやポストモダン・アートにみる大衆文化や消費社会とアートの融合、(3)アートと領域を接する写真デザインやファッションなど身近な視覚文化の発展、という3つのテーマから講義をおこなった。近現代の芸術表現が社会の変化とともにどのように発展してきたのか、さらにアートと視覚文化が接近することによって表現活動がどのように変貌してきたのか、という問題について、具体的な作例を提示することによって、受講生の関心や問題意識を刺激するような授業を心掛けた。				
	教育活動の振り返り： アンケート結果はおおむね良好であったと思う。今期の講義では、講義の最後に行うコメントへの記入作業においても各学生の意欲が感じられるものが多く、個々の問題意識もより明確になっていたことがわかり、一定の成果が得られたと考える。現代社会に寄り添うアートやそれに類する表現活動を理解し、それについて語るための技術や語彙を学生が必要としていることがよくわかる結果でもあり、今後の参考とした。				
	教育活動の成果： 講義を通して、私たちの社会の多様な側面にアートが深い関係をもっていること、さらに、私たちの感性やライフスタイルにアートが豊かさを与えていることを、受講生各自が自分の体験と照らし合わせて理解することができたと思う。コメントカードや授業アンケートの結果からも、受講生各自のものの見方や感じ方に広がりを与えることができたことがわかり、受講生の関心の高さが伝わった。				
	今後の課題： 受講生にとっては、「アート」という概念が意味するものが馴染みのないものである場合が多いため、受講生ひとりひとりが自分の日常とアートの関わりの深さをより身近に感じることができるように、さらに興味をもって受講できるような話題を提供できるように努めたい。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

	科目名 表現・発信系演習5	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 約30名
FD 活 動 ・ 教 育 実 績	<p>授業の概要： 社会で活用されるグラフィック・デザインの基礎を学ぶために、画像編集・加工ソフト (Adobe Photoshop) の基本的な操作について教授した。ポストカードやポスターなどのグラフィック・デザインは、現代社会の重要なコミュニケーション・ツールの一つであることを理解し、基本的な画像の編集・加工の知識を身につけることによって、さまざまな表現が可能になること、文字と組み合わせたりレイアウトを工夫したりすることで効果的にメッセージを発信できることを、実際の作業を通して学習した。受講生各自の制作物を完成させるなかで、柔軟な発想力を培い、ヴィジュアル・デザインに対する感性を磨くことを目指した。</p>			
	<p>教育活動の振り返り： 演習の内容については、アンケート結果から受講生の手ごたえを感じることができた。ソフトの基本操作を一通り習得することによって、受講生各自が自信をつけ、今後の自身の活動に積極的に取り入れていこうとする意欲が感じられたことが、担当者として一番良かったと思える点であった。</p> <p>教育活動の成果： この演習の課題は、(1) 画像編集ソフトの基本的操作を習得すること、(2) ヴィジュアル・コミュニケーションの効果的手法を身につけること、(3) 受講生各自の表現力や発信力を磨くこと、の3つであったが、実際の演習を進めるなかで、当初の目標におおむね達することができた。さらに、グループで制作物を仕上げることによって、企画から編集、仕上げまで、共同作業の重要性についても受講生各自がそれぞれに自分の責任として実感することができたと思う。</p> <p>今後の課題： 受講生によって作業の習得スピードにばらつきがあるため、それぞれの習熟度に応じて、演習の進め方を検討する必要がある。授業時間外での作業も視野に入れつつ、受講生全員のスキルアップをはかれるように、次年度からは授業のスピード、課題の分量についてケースバイケースで対応していくことを試みたい。</p>			
	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績 平成27年 3月 学内 第2回FD講演会「授業と評価をつなぐ為に：ループリック評価入門」に参加</p>			
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義系科目では、毎回コメントカードの記入と提出をおこない、講義内容に関する学生の理解度をはかるとともに、関連質問については授業内に補足説明をした。 ・ 現代社会研究演習では、受講生全員に講義開始後と終了後に個人面談を行い、進路相談ならびに卒業論文のテーマに関する指導をおこなった。 ・ オフィスアワーなどで、学生の相談および指導をおこなった。 			
H26 年度 研究課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大正昭和の写真雑誌の視覚文化論的研究 (『芸術写真研究』『フォトタイムス』など) 2. 日本近現代の「家族写真」に関するメディア論的研究 3. 東アジアにおける大衆的図像の視覚文化研究 (ポスターに関する共同研究) 4. 近代日本における博覧会絵葉書の流行に関する視覚文化論的研究 			
年度の 研究活動の 概要 平成二十六年 (2014)	<ol style="list-style-type: none"> 1. については、写真雑誌『芸術写真研究』と『フォトタイムス』において「デフォルメーション」という技法がどのように語られているのか、テキストと写真イメージに注目して分析した。 後述：(論文)1 2. については、明治安田生命が手掛ける写真コンテスト「マイハピネス・フォトコンテスト」の応募写真と、同社企業イメージCMにおける写真の利用を調査し、美学芸術学会にて口頭発表を行った。 後述：(学会報告、学会活動)学会報告1, (論文)2 			

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

<p>平成二十六年(2014)年度の 研究活動の概要 つぎき</p>	<p>3. については、公益財団法人サントリー文化財団より「東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論」(研究代表：岸文和)というテーマで、グループ研究による助成金を獲得した。平成26年8月、12月、平成27年3月に、香港・韓国・台湾・アメリカから研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催した。各シンポジウムの事務局を担当し、シンポジウムの設営および運営に従事した。後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>4. については、個人コレクター所蔵の明治から昭和(前半)までの博覧会絵はがきをテーマ別/図像別に分類し、分析を行った。</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「写真とデフォルメーション 1920年代の「芸術写真」と「新興写真」の狭間に」、単著、平成27年3月、京都精華大学紀要第46号 (pp.3-21)</p> <p>2. 「メディアのなかの「家族写真」：明治安田生命テレビCMにみる家族イメージ」、単著、平成27年3月、美学芸術学会(同志社大学文学部美学芸術学科) 美学芸術学第30号 (pp.39-56)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会報告： 1. 「メディアのなかの「家族写真」」、単独、平成26年10月、美学芸術学会、同志社大学</p> <p>学会活動： 1. 大正イマジユリィ学会編集委員として学会誌『大正イマジユリィ』10号の編集作業に従事</p> <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>(調査活動)</p> <p>平成26年 9月 現代アートの島として知られる香川県直島・豊島の調査研究(ベネッセミュージアム・地中美術館・豊島美術館の見学および家プロジェクトの調査)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成26年度 公益財団法人サントリー文化財団助成 人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成 111「東アジアにおける大衆的図像の視覚文化論 ポスターに見る大衆の欲望」(研究代表者：同志社大学・文学部・教授 岸文和)の国際シンポジウム事務局を担当</p> <p>(学内活動)</p> <p>広報誌編集委員会委員、学生相談室運営委員会委員</p>
<p>平成二十六年(2014)年度の 社会における活動</p>	<p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年10月 模擬授業「社会とつながるアートの役割」、於：奈良県立奈良情報商業高等学校 平成26年11月 京都文教高等学校ALP「美術から見る社会」、於：同校</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都造形芸術大学通信教育部 非常勤講師(「近現代美術」「写真芸術論」「卒業研究」) 「平14.4より」 ・ 大阪成蹊大学芸術学部 非常勤講師(「美学」)「平17.10-平26.9」 ・ 龍谷大学国際文化学部 非常勤講師(「映像文化論B」「大衆文化論C」)「平18.4より」 ・ 同志社大学 嘱託講師(「芸術学」)「平24.4より」 <p>平成26年 6月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業(共担)、「「こころ」と「写真」にみる社会」、於：京都文教大学</p>
<p>平成二十一年(2009)～ 二十五(2013)年度の 主な研究成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>1. 「「モダン・フォトグラフィ」受容の重層性：『フォトタイムス』誌に見る言説空間と写真実践」、単著、平成23年3月、京都精華大学紀要第38号 (pp.69-94)</p>

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	<p>(論文 つづき)</p> <p>2. 「写真の流通とジャンルの横断：岡本東洋の「美術資料写真」「生態写真」「観光宣伝写真」に注目して」、単著、平成24年3月、大正イマジユリィ学会 大正イマジユリィ 7 (pp.75-93)</p> <p>3. 「写真雑誌における「投稿」と「批評」の戦略：大正期写真雑誌の「誌友」コミュニティに注目して」、単著、平成25年3月、同志社大學文化學會 文化學年報第62輯 (pp.368-382)</p>
	<p>(学会報告、学会活動)</p> <p>学会・研究会報告：</p> <p>1. 「写真に見るモダニズムの間隙：岡本東洋の花鳥・鳥獣写真を中心に」、単独、平成21年12月、大正イマジユリィ学会第18回研究会、京都精華大学</p> <p>学会活動：</p> <p>1. 平成22年 3月 大正イマジユリィ学会 常任委員 (編集委員)「現在に至る」</p>
	<p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <p>1. 「「岡本東洋と芸艸堂」：「美術資料写真」と「写真の原点」」、単著、平成21年11月、京都精華大学情報館 「京都圖案の伝統と冒険：芸艸堂」展覧会冊子 (pp.12-13)</p> <p>2. 「『芸術写真研究』における「軟調描写」と「デフォルメーション」：中嶋謙吉の「批評」と「印画頒布会」に注目して」、共著 (当該部分担当)、平成25年3月、科学研究費補助金研究成果報告書 課題番号215201113 (後述) (pp.59-72)</p>
	<p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>平成21年度-平成24年度</p> <p>科学研究費補助金 (基盤研究C) 「日本近世における視覚文化の美的構造 美的性質の類型論を手がかりに」 (課題番号215201113, 研究代表者：同志社大学・文学部・教授 岸文和) 研究協力者</p>
	<p>(学内活動)</p>
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度における活動	<p>平成14年 4月 京都造形芸術大学通信教育部 非常勤講師所 (「近現代美術」「写真芸術論」「卒業研究」)「現在に至る」</p> <p>平成17年10月 大阪成蹊大学芸術学部 非常勤講師 (「美学」)「平26.9まで」</p> <p>平成18年 4月 龍谷大学国際文化学部 非常勤講師 (「映像文化論B」「大衆文化論C」)「現在に至る」</p> <p>平成18年10月 京都精華大学芸術学部造形学科 非常勤講師 (「日本近代美術史」)「平26.3まで」</p> <p>平成19年 4月 京都産業大学 非常勤講師 (「日本美術史A」)「平26.3まで」</p> <p>平成20年 4月 1. 関西大学総合情報学部 非常勤講師 (「美術からみる表現と理解」)「平22.3まで」 2. 梅花女子大学 非常勤講師 (「絵画鑑賞法」)「平26.3まで」</p> <p>平成21年10月 1. 近畿大学文芸学部 非常勤講師 (「現代写真論」「プレゼンテーション演習」「芸術学講読B」)「平26.3まで」 2. 同志社大学 嘱託講師 (「日本の芸術」)「平23.3まで」</p> <p>平成24年 4月 同志社大学 嘱託講師 (「芸術学」)「現在に至る」</p>